

IV 野 菜

1. キャベツ

(1) 金系201号 (原名 金系201号)

記録番号：(北海道) キャベツ準移第12号

来歴 本品種は坂田種苗株式会社が、「富士早生」系を中心に親系統の分系を続け、これらの交配群からの自家不和合性利用によって作出した1代雑種で、1965年(昭40)に発表されたものである。

1979年(昭54)より北海道立中央農業試験場ならびに現地において試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草姿は開張型で、外葉はやや濃い緑色を呈し、葉縁は波うち、葉面は縮葉でこれが球葉にも及ぶ縮葉種である。外葉数は平均17枚、そのうち収穫時の生葉数は約9枚で「CM」よりかなり少ない。

2. 4月下旬播種で収穫期は7月中旬となり、生育日数は100日を越え、「CM」とほぼ同じである。

3. 初夏どりの球形指数(球高/球径)はほぼ1.0で球形を呈するが、作期が遅くなるとやや扁平化する傾向がある。球外側10枚の葉重が結球重に占める割合は70%と高く、葉重型に属する。球芯高は球高の50%以下で、太さも「CM」より細く、球芯部は小さい。また一球重は「CM」より重い。

4. 裂球しやすく、収穫期より5日程度で裂球が始まることもある。また年によって小球や病害球が発生することがある。

5. 収量は「CM」より明らかに多い。

6. 肉質は「CM」よりやわらかで、生食としては歯切れも良く、また品質も良好である。

栽培適地と奨励態度 道内全域で、初夏どりのほか、夏どりや秋どり栽培にも適する。栽培法は北海道の栽培基準に準ずるが、裂球しやすいので収穫適期をのがさないこと。また良質品生産のためやや密植することが望ましい。

試験場名	品 種 名	結球始 (月・日)	収穫期 (月・日)	10 a 当 り			平 均 1 球 重 (g)	球 形 指 数	試 験 年 次
				総結球重 (t)	上物重 (t)	左 比 (%)			
中央農試	金系201号	6.18	7.13	5.72	5.63	134	1,176	0.99	1979～1982
	C M	6.22	7.12	4.38	4.21	100	987	0.97	

注) 平均播種日は4月1日、同定植日は5月2日。球形指数は球高/球径。

参照 1) 北海道農務部編、昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項、47—52 (1983)。

(2) 北ひかり (原名 北ひかり)

登録番号：(北海道) キャベツ準移第13号

来歴 本品種はタキイ種苗株式会社が、「春風2号」×「中野早生系」の後代から選抜した強勢で高温結球性の系統と、「富士早生」の分系から選抜した締まりの良い良質早生系統を用いて作出した一代雑種で、1978年(昭53)に育成を完了した。1980年(昭55)より北海道立中央農業試験場ならびに現地において試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草姿や外観性状は「金系201号」に類似する縮葉種である。

2. 4月上旬播種で収穫期は7月中旬となり、生育日数は100日を越え、「CM」とほぼ同じである。

3. 初夏どりでの球形指数は1.0前後で球形を呈するが、作期が遅くなるとやや扁平化する傾向がある。「金系201号」と同じ葉重型に属し、球芯部は小さく、1球重は「CM」よりやや重い。

4. 裂球しやすく、収穫期より5日程度で裂球が始まることもある。また年によって小球や病害球が発生することがある。

5. 収量は「CM」より明らかに多い。

6. 肉質は「CM」よりやわらかく、生食として歯切れも良く、品質は良好である。

栽培適地と奨励態度 道内全域で、初夏どりのほか、夏どりや秋どり栽培にも適する。また栽培法ならびに栽培上の注意は「金系201号」に準ずる。

試験場名	品 種 名	結球始 (月.日)	収穫期 (月.日)	10 a 当 り			平 均 1 球 重 (g)	球 形 指 数	試 験 年 次
				総結球重 (t)	上 物 重 (t)	左 (%) 比			
中央農試	北 ひ か り	6.18	7.12	5.32	5.17	123	1,093	0.93	1980~1982
	C M	6.22	7.11	4.58	4.48	100	1,053	0.97	

注) 平均播種日は4月1日、同定植日は5月2日。球形指数は球高/球径。

参照 1) 北海道農務部編。昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項。47—52 (1983)。

(3) スピードボール (原名 スピードボール)

登録番号：(北海道) キャベツ準移第14号

来歴 本品種は株式会社渡辺採種場において、「アラスカ」×「デトマシュフォーシング」の後代と、「マリオンマーケット」×「ゴールドエンカー」の後代の極早生系を親として育成したもので、1965年(昭40)に育成を開始し、1972年(昭47)に発表された。

1979年(昭54)より北海道中央農業試験場ならびに現地において試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草姿はやや立性、外葉はやや淡緑色を呈し、外葉面や球葉面は平滑な普通種である。外葉数は平均20枚、そのうち収穫時の生葉数は13枚で「CM」より少ない。

2. 4月上旬播種で収穫適期は7月上旬となり、生育日数は95日前後で「CM」よりやや短い極早生種である。

3. 球形指数は1.0前後でほぼ球形。球外側10枚の葉重が結球重に占める割合は約50%で「CM」

- より高い。一球重は「CM」よりやや重く、球芯高は球高の40%以下で「CM」より短い。
4. 裂球しやすく、収穫期から2～3日後に裂球が始まることもある。また年によって小球や軟球が発生することもあるが、その程度は「CM」より低い。
 5. 収量は「CM」より明らかに多い。
 6. 生食としてのやわらかさ、甘さ、肉質等は「CM」と大差ない。

栽培適地と奨励態度 道内全域で、初夏どりのほか、夏どりや秋どり栽培にも適する。また栽培法や栽培上の注意は「CM」に準ずる。

試験場名	品 種 名	結球始 (月.日)	収穫期 (月.日)	10 a 当 り			平 均 1 球 重 (g)	球 形 指 数	試験年次
				総結球重 (t)	上 物 重 (t)	左 比 (%)			
中央農試	スピードボール C M	6.17	7. 8	5.20	5.17	123	1,100	1.00	1979～
		6.22	7.12	4.38	4.21	100	987	0.97	1982

注) 平均播種日は4月1日、同定植日は5月2日。球形指数は球高/球径。

参照 1) 北海道農務部編、昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項、48—52 (1983)。

(4) アーリーボール (原名 アーリーボール)

記録番号：(北海道) キャベツ準移第15号

来歴 本品種は坂田種苗株式会社において、「富士早生」×「ゴールデンエーカー」から選抜した良質の早生系統と、「コペンハーゲンマーケット」×「ウィスコンシンYR系」から選抜した黒葉の小型で早生のYR系統を親として育成したもので、1969年(昭44)に育成を完了した。

1980年(昭55)より北海道中央農業試験場ならびに現地において試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。

- 特性概要 1. 草姿や外観性状は「スピードボール」に類似する普通種である。外葉数は平均21枚、そのうち収穫時の生葉数は11枚で「CM」より少ない。
2. 4月上旬播種で収穫適期は7月上～中旬となり、生育日数は100日前後で「CM」なみかやや早い。
 3. 球形指数は1.0を越えるがほぼ球形、球外側10枚の葉重が結球重に占める割合は約50%で「CM」より高い。1球重は「CM」より重く、球芯高は球高の約50%で「CM」より短い。
 4. 裂球はしやすい方で、年によって小球や軟球が発生することもあるが、その程度は低い。
 5. 収量は「CM」より明らかに多い。
 6. 生食としての品質や食味は「CM」と大差ない。

栽培適地と奨励態度 道内全域で、初夏どりのほか、夏どりや秋どり栽培にも適する。また栽培法や栽培上の注意は「CM」に準ずる。

試験場名	品 種 名	結球始 (月.日)	収穫期 (月.日)	10 a 当 り			平 均 1 球 重 (g)	球 形 指 数	試験年次
				総結球重 (t)	上 物 重 (t)	左 比 (%)			
中央農試	アーリーボール C M	6.19	7.10	5.38	5.33	119	1,137	1.05	1980～
		6.22	7.11	4.58	4.48	100	1,050	0.97	1982

注) 平均播種日は4月1日、同定植日は5月2日。球形指数は球高/球径。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項, 48—52 (1983).

(5) デリシャス (原名 デリシャス)

記録番号: (北海道) キャベツ準移第16号

来歴 本品種は, 1968年 (昭43) に株式会社渡辺採種場において「SEクロス」の後代と, 「川崎葉深」の後代の極上質系統との組合せで作出し, 1971年 (昭46) に発表されたものである。

1977年 (昭52) より北海道立中央農業試験場ならびに現地において試験を行い, 1983年 (昭58) に優良 (準奨励) 品種に決定した。

特性概要 1. 草姿は開張型で, 外葉は緑色, 外葉面や球面は共に平滑である。

2. 5月上旬播種で生育日数は105日前後となり, 収穫期は「SE」より若干早い。

3. 球形指数は栽植密度によって異なるのがおよそ0.65~0.70で, 「SE」とほぼ同じ偏球形である。1球重は「SE」と大差なく, 球芯高は球高の40%前後で「SE」より短い。

4. 裂球はやや難で, 収穫期後裂球期まで期間は「SE」よりやや長い。年によって小球や病害球が発生するが, その程度は低い。

5. 収量は「SE」なみの多収を示す。

6. 生食としてのやわらかさ, 甘さ, 肉質等はいずれも「SE」よりまさり良好である。

栽培適地と奨励態度 道内全域で夏どり栽培のほか, 秋どり栽培にも適する。また栽培法や栽培上の注意は「SE」に準ずる。

試験場名	栽培法	品 種 名	結球始 (月.日)	収穫期 (月.日)	10 a 当 り			平 均 1 球重 (kg)	球 形 指 数	試験年次
					総結球重 (t)	上物重 (t)	左 比 (%)			
中央農試	標 植	デリシャス	7.19	8.20	7.70	7.56	97	2.32	0.67	1977~
		S E	7.16	8.21	7.93	7.76	100	2.40	0.65	1980
	密 植	デリシャス	7.22	8.19	7.37	7.28	99	1.53	0.72	1979~
		S E	7.22	8.21	7.76	7.35	100	1.71	0.70	1982

注1) 平均播種日は標植, 密植共5月7日, 同定植日標植が6月3日, 密植は6月4日。

2) 標植は60cm×50cm, 密植は50cm×40cm。球形指数は球高/球径。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項, 49—52 (1983).

(6) 初秋穫 (原名 初秋穫)

記録番号: (北海道) キャベツ準移第17号

来歴 本品種は野崎採種場において, 「野崎夏時」から分系した極早生系統と, 「葉深」×「野崎夏時」の後代から選抜した耐暑性の系統との組合せで作出した自家不適合性利用の一代雑種で, 1960年 (昭35) に発表されたものである。

1977年 (昭52) より北海道立中央農業試験場ならびに現地において試験を行い, 1983年 (昭58) に優良 (準奨励) 品種に決定した。

特性概要 1. 草姿は中間型で, 外葉は緑色, 外葉縁はやや波状を呈するが, 外葉面や球面

は平滑である。

2. 生育日数は、5月上旬播種で107日前後となり「SE」とほぼ同じである。
3. 球形指数は0.7前後で「SE」なみやや甲高な偏球形を呈する。1球重は「SE」と大差なく、球芯高は球高の約50%で、「SE」と同等である。
4. 裂球は難、小球や病害球の発生も「SE」なみで少ない。
5. 収量は「SE」なみの多収を示す。
6. 生食としてのやわらかさ、甘さ、肉質等はいずれも「SE」よりまさり良好である。

栽培適地と奨励態度 道内全域で夏どり栽培のほか、秋どり栽培にも適する。また栽培法や栽培上の注意は「SE」に準ずる。

試験場名	栽培法	品 種 名	結球始 (月.日)	収穫期 (月.日)	10 a 当 り			平 均 1 球 重 (kg)	球 形 指 数	試験年次
					総結球重 (t)	上物重 (t)	左 比 (%)			
中央農試	標 植	初 秋 穫	7.17	8.21	7.85	7.28	94	2.48	0.69	1977～
		S E	7.16	8.21	7.93	7.76	100	2.42	0.65	1980
	密 植	初 秋 穫	7.23	8.22	8.56	8.28	113	1.71	0.72	1979～
		S E	7.22	8.21	7.76	7.35	100	1.59	0.70	1982

注1) 平均播種日は標植、密植共5月7日、同定植日は標植が6月3日、密植は6月4日。

2) 標植は60cm×50cm、密植は50cm×40cm。球形指数は球高/球径。

参照 1) 北海道農務部編、昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項、49—52 (1983)。

2. ダイコン

(1) 天 春 (原名 天春)

記録番号：(北海道) だいこん準移第7号

来歴 本品種は、坂田種苗株式会社が、晩抽性の「時無」と、低温肥大性で耐病良質の「黒葉系みの早生」を用い、その後代系統の選抜と組合わせ検定を経て、1979年(昭54)に発表したものである。同年より北海道立中央農業試験場ならびに現地において試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草姿はやや立性で、「四月早生」より葉長は長く、葉数も多い。葉色はやや濃緑で、葉縁には欠刻がみられる。

2. 抽台時期は「四月早生」よりやや早く、4月下旬播種では年によって抽台が問題となるが、5月下旬以後の播種では問題とならない。生育日数は「四月早生」と同じである。
3. 根の地上抽出部の長さは「四月早生」より短く、やや緑色を帯び、いわゆる青首種に近い。根形は中央部より先細りとなり、根長は30～40cm、根径が6～8cmで、「四月早生」より短く、太めで、側根は太く、多い方である。
4. 根重は600～1,200gで「四月早生」とほぼ同じ。夏どりに比べ初夏どりでは根重が軽くなる。
5. 収量は、初夏どりでは「四月早生」よりまさり、夏どりではほぼ同等である。
6. す入りの発生は「四月早生」なみで遅い方である。
7. 生食としての味は「四月早生」とほぼ同じであるが、やや辛味がある。

栽培適地と奨励態度 道内全域で、初夏どりおよび夏どり栽培に適する。栽培法は北海道栽培基準に準拠するが、5月以前の播種では抽台や収量性からマルチやトンネル栽培が望ましい。またす入りは遅い方であるが、時期的には発生し易いので適期収穫に留意する。

試験場名	作型 (栽培法)	品種名	収穫期 (月・日)	根長 (cm)	根径 (cm)	抽出根長 (cm)	10 a 当り			平均 1根重 (g)	試験年次
							総根重 (t)	上物重 (t)	左比 (%)		
中央農試	初夏どり (露地)	天 春	7. 9	29.4	7.0	10.3	4.60	3.46	120	718	1979～
		四月早生	7. 9	35.0	6.9	14.1	4.57	2.97	100	670	1982
	初夏どり (マルチ)	天 春	7. 5	40.1	7.5	15.3	6.65	5.96	106	1,069	1979～
		四月早生	7. 5	45.2	6.7	17.6	6.78	5.63	100	1,035	1981
	夏どり (露地)	天 春	7.28	33.1	7.5	13.8	5.94	5.13	109	983	1980～
		四月早生	7.28	36.6	6.3	18.3	5.39	4.70	100	821	1982

注) 平均播種日は、初夏どり(露地) 4月28日、同「マルチ」4月28日、夏どり(露地) 6月2日。

参照 1) 北海道農務部編. 昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項. 52—53 (1983).

(2) 耐病総太り(原名 耐病総太り)

登録番号:(北海道) だいこん準移第8号

来歴 本品種は、タキイ種苗株式会社が、病害多発ほ場で選抜した「宮重長太」の晩す系と、熟期はやや遅いが耐病性で、す入りが比較的遅く根形の整った「黒葉みの」との雑種集団から選抜固定した耐病長太系を片親にし、「宮重総太り」の良質で形の良い早太り系を一方の親に用いた交配種で、1974年(昭49)に発表された。

1978年(昭53)より北海道立中央農業試験場ならびに現地において試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草姿は立性で、葉長は「大蔵」より短く、葉数は20～30枚、葉は緑色を呈し、葉縁に欠刻はない。

2. 生育日数は「大蔵」とほぼ同じで、秋どり栽培(8月播種)では抽台は問題とならない。

3. 根の地上抽出部は緑色を帯びる青首種である。抽出部は13～20cmと長く、根長の40～50%を占める。根形は総太り型で、根長30～40cm、根径7cm前後で、「大蔵」と同じかやや長く太めである。側根は細く、数も少ない。

4. 根重は600gから1,000gを越え、「大蔵」より重い。

5. 収量は「大蔵」より多い。

6. す入りの少ない品種で、その程度も「大蔵」より軽い。年によって肩根や岐根が発生するが、裂根や病害根の発生は少ない。

7. 肉質良く、生食としての味は良好である。

栽培適地と奨励態度 道内全域で秋どり栽培に適するが、道央では7月上旬播種も可能である。栽培法は北海道の栽培基準に準拠するが、良質品生産のためには疎植を避け、適期収穫に留意する。

試験場名	品 種 名	収穫期 (月・日)	根 長 (cm)	根 径 (cm)	抽 出 根 長 (cm)	10 a 当 り			平 均 1 根 重 (g)	試 験 年 次
						総根重 (t)	上物重 (t)	左 比 (%)		
中央農試	耐病総太り	10.22	33.8	6.5	17.8	6.35	5.67	154	1.037	1978～1982
	大 蔵	10.22	28.0	6.5	11.5	4.97	3.69	100	873	

注) 平均播種日は8月15日。

参照 1) 北海道農務部編。昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項。53—54 (1983)。

3. アスパラガス

(I) 北海100 (旧系統名 優勢系統)

登録番号: (北海道) アスパラガス準北海道第3号

来歴 本品種は北海道農業試験場、北海道立中央農業試験場、同道南農業試験場、北海道大学農学部、北海製缶株式会社ならびに北海道アスパラガス協会が共同で育成したものである。

1970年(昭45)に岩内町、留寿都村、喜茂別町および夕張市において、20年以上経過した「瑞洋」の栽培ほ場から優良株約750株と、15年以上経過した「MW」(Merry Washington)または「MW500W」(Merry Washington 500W)栽培ほ場から優良株約250株を選抜。さらに1971年(昭46)に岩内町、乙部町、由仁町、湧別町および士別市において、20年以上経過した「瑞洋」の栽培ほ場から優良株約1,000株を選抜し、前年選抜したものと同一ほ場に定植した。定植後は生育不良株を淘汰しながら集団採種を行い、それに「優勢系統」の系統名を付して各種の試験を行い、1981年(昭56)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 萌芽期は「MW500W」と同程度で早生に属する。

2. 若茎の太さや緑色度は「MW500W」と同程度で中位、頭部のしまりや形も良い。

3. 規格内茎数は「MW500W」よりやや多いが、1本茎重は「MW500W」と大差ない。

4. 規格内収量は「MW500W」と同程度かややまさる。

5. 若茎のうち、開頭や曲りを除く上物の比率は「MW500W」と大差なく、品質は良好である。

栽培適地と奨励態度 道内全域においてホワイトおよびグリーン栽培用に適する。また栽培上の注意は「MW500W」に準ずる。

試験場名	品 種 名	10 a 当 り 規 格 内				1 本 茎 重 (g)	試 験 年 次
		重 量 (kg)	左 比 (%)	茎 数 (本)	左 比 (%)		
北海道農試	北 海 100	290	126	13,083	110	19.9	1978～1980
	MW500W	231	100	11,913	100	19.4	
中央農試	北 海 100	350	99	21,110	104	16.5	"
	MW500W	352	100	20,273	100	17.5	
道南農試	北 海 100	338	114	16,993	104	20.0	"
	MW500W	297	100	16,317	100	18.1	

注) 各試験場共1975年4月定植。

参照 1) 北海道農務部編。昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項。50—53 (1981)。

4. タマネギ

(1) フラヌイ (旧系統名 月交1号)

登録番号：(北海道) たまねぎ北海道交第2号；(農水省) たまねぎ農林交2号

来歴 本品種は、1975年(昭50)に北海道農業試験場において「W202A」を母、「F316」を父として作出した細胞質雄性不稔利用による一代雑種である。1976年(昭51)に「月交1号」の系統名を付し、以後各種の試験を行い、1979年(昭54)に優良(奨励)品種に決定した。

なお構成系統の来歴は次のとおりである。

W202A：アメリカのWisconsin大学で、「Southport Yellow Globe」と「Trapps Downing」との交雑集団から選抜育成した乾腐病抵抗性の細胞質雄性不稔系統で、北海道農業試験場が1974年(昭49)に雄性不稔維持系「W202B」とともに導入した。

F316：富良野市の乾腐病多発ほ場において、「札幌黄」の自殖系統から選抜した乾腐病抵抗性の系統。

- 特性概要 1. 鱗茎の形は「札幌黄」よりやや扁平であるが、揃いは良い。外皮は「札幌黄」よりやや厚く、色は黄褐色、鱗茎の締まりは良いが、裂皮の発生がやや多い。
2. 倒伏期は「札幌黄」よりやや早く、「北見黄」とほぼ同じである。
3. 乾腐病に対する抵抗性を有し、ほ場での乾腐病発病率は「札幌黄」の1/3程度、軟腐病にもやや強いが、ボトリチス属菌による腐敗病は「札幌黄」と同程度である。
4. 鱗茎の肥大は「札幌黄」なみかやや劣るため、全収量では「札幌黄」より劣ることがあるが、長球や分球の発生が少なく、L及びM球の比率が高いため、規格内収量は一般に「札幌黄」よりまさる。
5. 貯蔵中の萌芽や発根は「札幌黄」より遅く、貯蔵性は「札幌黄」よりまさる。

栽培適地と奨励態度 タマネギ乾腐病多発地帯で、従来の品種におきかえる。また栽培上の注意は、「札幌黄」の移植栽培に準ずる。

試験場名	品種名	倒伏期 (月・日)	10 a 当り			平均 1球重 (g)	球形 指数	腐敗率(%)		貯 蔵 中		試験年次
			全収量 (t)	規格内 収 量 (t)	左比 (%)			乾腐病	軟腐病	発根 萌芽 (%)	腐敗 (%)	
北海道農試 (月 寒)	フラヌイ	8.19	4.25	4.25	117	152		2.9	0.4			1976
	札幌黄	9. 6	4.04	3.63	100	206		11.6	4.6			
北海道農試 (富良野)	フラヌイ	8. 3	5.85	5.81	179	215	0.91	13.5	—	0	30.3	1976～
	札幌黄	8. 6	3.85	3.25	100	204	0.99	37.2	—	3.2	27.4	1978
中央農試	フラヌイ	8. 5	4.59	4.56	109	151	0.95	7.4	—			1978
	札幌黄	8. 4	4.23	4.18	100	168	0.95	22.2	—			
北 見 農 試	フラヌイ	8.12	5.38	5.07	107		0.91	1.8	0	0	2.1	1976、
	札幌黄	8.17	5.28	4.73	100		0.96	8.0	4.6	14.9	8.8	1978

注) 北海道農試(富良野)は、北海道農試が富良野市の乾腐病多発ほ場で試験を実施。

- 参照 1) 北海道農務部編。昭和54年普及奨励ならびに指導参考事項。30—34 (1979)。
2) 小餅昭二。農業技術。35, 19—21 (1980)。

(2) 月 輪 (旧系統名 試交4701)

登録番号: (北海道) たまねぎ準移第5号

来歴 本品種は、株式会社渡辺採種場において、「札幌黄」から選抜育成した細胞質雄性不稔系統を母、「Encore」から選抜育成したやや早生の系統を父として作出した一代雑種である。1977年(昭52)～1978(昭53)に北海道農業試験場で試作検定し、1979年(昭54)以降各種の試験を行い、1982年(昭57)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 種子の大きさ及び発芽の速さは「札幌黄」なみであり、発芽後の生育も旺盛である。

2. 草丈、葉数は「札幌黄」と差がなく、葉鞘径は「札幌黄」よりやや太い場合が多い。草姿は「札幌黄」よりやや立性である。

3. 鱗茎は「札幌黄」より明らかに大きく、形はやや甲高の球形である。裂皮や皮むけの発生は「札幌黄」なみであるが、鱗茎の締まりは「札幌黄」より劣り、やや軟質である。

4. 倒伏期や枯葉期は、道央では「札幌黄」と大差ないが、道東では「札幌黄」より遅い。

5. 乾腐病抵抗性は「札幌黄」より劣るものと思われるが、他の病害及び貯蔵中の灰色腐敗病に対する抵抗性は「札幌黄」なみである。抽台耐性は「札幌黄」より劣るものと思われる。

6. 一球重は「札幌黄」より大きく、規格外品の発生は「札幌黄」とほぼ同等である。

7. 貯蔵中の萌芽および発根は、「札幌黄」より早く、貯蔵可能期間は「札幌黄」より2週間程度短い。食味は軟質多肉で良好である。

栽培適地と奨励態度 全道のたまねぎ栽培地帯を適地とするが、とくに道央地域における短期貯蔵早期出荷向に好適する。栽培に当たっては、病害の多発や品質低下を防ぐため窒素肥料の多用や密植栽培は避ける。

試験場名	品種名	倒伏期 (月・日)	枯葉期 (月・日)	10 a 当 り			平均 1球重 (g)	球形 指数	貯 蔵 中		試験年次
				全収量 (t)	規格内 収 量 (t)	左 比 (%)			発 根 (%)	腐敗 (%)	
北海道農試	月 輪	8.22	9. 2	4.64	4.38	135	179		15.6	2.4	1980～ 1981
	札 幌 黄	8.21	9. 4	3.45	3.25	100	144		(6.1)	(1.4)	
中央農試	月 輪	8.20			4.91	105	188	1.06	59	6	1979～ 1981
	札 幌 黄	8.19			4.66	100	174	1.06	49	1	
北見農試	月 輪	8.23	9.15	8.63	6.67	104		0.90	57.7	2.7	1979～ 1980
	札 幌 黄	8.22	9.16	7.35	6.39	100		0.91	47.2	2.7	

注) 貯蔵中の発根・萌芽、腐敗は、北海道農試は1979～1980年の2カ年平均で、()内は「北見黄」。中央農試は1980年の成績。

参照 1) 北海道農務部編、昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項、33—35 (1982)。

(3) ひぐま

登録番号: (北海道) たまねぎ準移第6号

来歴 本品種は、タキイ種苗株式会社において、「札幌黄」から選抜育成した細胞質雄性不稔系統を母、「北見在来」から選抜育成した極早生、耐病、晩抽の系統を父として作出した一代雑

種である。1978年（昭53）～1979年（昭54）に北海道で試作検定し、1980年（昭55）以降各種の試験を行い、1983年（昭58）に優良（準奨励）品種に決定した。

- 特性概要 1. 種子の千粒重は5g前後で「札幌黄」より重い。発芽の速さや良否は「札幌黄」なみで、発芽後の生育はやや旺盛である。
2. 草姿はやや立性、葉色はやや濃緑で、草勢は「北見黄」よりすぐれ、「札幌黄」なみである。
3. 鱗茎の形は「札幌黄」と同じやや甲高で、締まりも「札幌黄」なみである。外皮色は「札幌黄」より僅かに淡い。
4. 道央地域では、鱗茎の肥大期、倒伏期は「札幌黄」なみであるが、枯葉期は「札幌黄」なみかやや早い。北見地方では生育が早まり、肥大期、倒伏期、枯葉期ともに「北見黄」より早い。
5. 生育中の葉枯性病害に対しては「札幌黄」より強く、軟腐病に対しても「札幌黄」や「北見黄」より強い。灰色腐敗病には「札幌黄」より強いが、「北見黄」なみかやや弱い。乾腐病に対しては「札幌黄」なみで、「北見黄」より弱い。
6. 平均一球重が重く、L玉中心の玉揃いとなるため、規格内収量は「北見黄」よりかなり多く、とくに天候不良年には「北見黄」や「札幌黄」に対する増収率が大きくなる。屑小玉は少ないが、長玉がやや多く、皮むけや裂皮の発生もやや多い。
7. 貯蔵中の萌芽の早さは「札幌黄」なみであるが、発根は「札幌黄」より早く、貯蔵性はやや劣る。また貯蔵中の病害の発生や皮むけなどは「札幌黄」なみである。
- 栽培適地と奨励態度 全道のたまねぎ栽培地帯を適地とする。栽培に当たっては、乾腐病に弱いので多発地あるいは多発させるような栽培は避ける。

試験場名	品 種 名	倒伏期 (月・日)	枯葉期 (月・日)	10 a 当 り			平 均 1球重 (g)	球 形 指 数	貯 蔵 中		試験年次
				全収量 (t)	規格内 収 量 (t)	左 比 (%)			発 根 率 (%)	腐敗 率 (%)	
北海道農試	ひぐま	8.16	9.2	4.47	3.87	143	135		23.5	3.5	1981～ 1982
	北見黄	8.16	9.1	3.36	2.73	100	108		15.9	3.3	
中央農試	ひぐま	8.18	9.12	6.14	4.37	126	204	1.11	30.3	4.0	1980～ 1982
	北見黄	8.17	9.12	4.64	3.69	100	176	1.08	37.5	2.5	
北見農試	ひぐま	8.10	9.6	6.87	6.08	143	234	0.96	30.3	2.7	1981～ 1982
	北見黄	8.17	9.11	5.59	4.23	100	202	0.92	—	—	

注) 貯蔵中の発根・萌芽、腐敗は、北海道農試と北見農試は1981年、中央農試は1980～1981年の2カ年平均。

参照 1) 北海道農務部編、昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項、35—39（1983）。

(4) そらち黄〔旧系統名 札幌黄（岩見沢系）〕

登録番号：（北海道）たまねぎ準移第7号

来歴 本品種は、岩見沢市たまねぎ採種組合が「札幌黄」から選抜し育成したものである。岩見沢市たまねぎ採種組合は、たまねぎの生産安定と品種の統一を図るため、1972年（昭47）に岩見沢市内で栽培されていた「札幌黄」の系統を収集して比較検討し、その中から最もすぐれた系統として「森本系」を選定した。この「森本系」を基本集団として、その後さらに選抜を重ねて育成した系統に、1975年（昭50）より「平井系」の名を付して検討を続け、1980年（昭

55) からは「札幌黄(岩見沢系)」と改称して、特性を維持しつつ種子増殖を行い普及を図った。北海道立中央農業試験場は1980年(昭55)に本系統をとりあげ、以後各種の試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 種子の大きさや発芽の速さは「札幌黄」なみであるが、発芽後の生育は「札幌黄」よりまさる。

2. 草姿は「札幌黄」と同様やや開張型で、草勢は「札幌黄」なみかややまさる。

3. 鱗茎の形は「札幌黄」と同じ地球型、平均1球重も「札幌黄」なみで、外皮色は「札幌黄」より若干赤味を帯びる。

4. 鱗茎肥大期は「札幌黄」と同じであるが、倒伏期は「札幌黄」より2～4日遅く、枯葉期は「札幌黄」と同じである。

5. 生育中の葉枯性病害の被害は「札幌黄」なみで、灰色腐敗病、軟腐病、乾腐病などによる被害球の発生は「札幌黄」より少ない。

6. 一球重及び規格内収量は「札幌黄」なみである。

7. 貯蔵中の腐敗や萌芽の発生程度は「札幌黄」と差がないが、発根がやや少なく、貯蔵性はややまさる。

栽培適地と奨励態度 空知支庁管内で「札幌黄」におきかえる。栽培上の注意は「札幌黄」に準ずる。

試験場名	品 種 名	倒伏期 (月・日)	枯葉期 (月・日)	10 a 当 り			平均 1球重 (g)	球 形 指 数	貯 蔵 中		試験年次
				全収量 (t)	規格内 収 量 (t)	左 比 (%)			発 根 率 (%)	腐敗 (%)	
中央農試	そらち黄	8.19	9.13	5.16	4.11	99	180	1.06	31.0	1.5	1980～
	札幌黄	8.17	//	4.95	4.17	100	193	1.06	28.0	2.5	1982

注) 貯蔵中の発根・萌芽、腐敗は、1980、1981年の2カ年平均。

参照 1) 北海道農務部編。昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項。40—46 (1983)。

(5) せきほく (旧系統名 北見交3号)

登録番号：(北海道) たまねぎ北海道交第3号：(種苗法) 第908号

来歴 本品種は、1980年(昭55)に北海道立北見農業試験場において、細胞質雄性不稔系統「W420 (78—1) A」を母、「KMS7320—12M₃」を父として作出した単交配一代雑種である。1981年(昭56)以降、「北見交3号」の系統名で各種の試験を行い、1984年(昭59)に優良(奨励)品種に決定した。

なお構成系統の来歴は次のとおりである。

W420 (78—1) A：1978年(昭53)に北海道立北見農業試験場が、アメリカの Wisconsin 大学から導入した細胞質雄性不稔系統「(RBW101B M BRB) A3」(のちに「W420A」と命名)を早生化する目的で、戻し交雑を行い選抜したもので、晩生であるが貯蔵性高く、乾腐病、紅色根腐病に対する抵抗性を有する。また同時に雄性不稔維持系統「(RBW101B M BRB) — 1—3M」(のちに「W420B」と命名)を導入し、自殖によって「W420 (78—1) B」を選抜した。

KMS7320—12M₃：「札幌黄(竹中系)」(「札幌黄(黒川系)」から選抜)を北見農業試験場に

において自殖を2回繰り返して選抜したもので、軟腐病にやや強いやや早生の系統である。

- 特性概要 1. 種子の大きさは「北見黄」なみで、幼苗期の生育も「北見黄」と差がない。
2. 初期生育は旺盛で、草姿は直立し、生育最盛期においても葉折れしにくい。草丈、葉色、葉鞘の太さなどは「北見黄」と差がない。また「北見黄」に認められる葉のねじれや波うちは皆無に近い。
3. 鱗茎の形は地球型であるが「北見黄」よりやや扁平で、大きさや形の揃いは北見黄よりまさる。外皮の色は「北見黄」より濃い黄銅色を示し、厚さが「北見黄」より厚いため皮むけはしにくい。
4. 鱗茎の肥大が旺盛で、肥大期は「北見黄」より2日程度早い。一般に倒伏期、枯葉期は「北見黄」より5日程度遅いが、生育の遅れる年や場所では「北見黄」より枯葉や10日程度遅れることがある。
5. 乾腐病に対しては「フラヌイ」程度の抵抗性を示し、軟腐病に対しても「北見黄」より強い。紅色根腐病に対しても抵抗性を有し、白斑葉枯病に対する抵抗性は「北見黄」なみである。
6. 平均一球重は「北見黄」なみかややまさり、全収量は「北見黄」より約20%多い。L球比率が高く、規格内収量は「北見黄」より約30%多収である。
7. 鱗茎貯蔵中の萌芽や発根は「北見黄」よりかなり少なく、貯蔵性はかなり高い。貯蔵中の灰色腐敗病の発生は「北見黄」程度である。

栽培適地と奨励態度 全道のタマネギ栽培地帯に適する。また栽培上の注意は「北見黄」に準ずるが、晩生種であるため生育が遅れる年や場所では、倒伏揃い後15日頃に根切り処理を行い枯葉促進をはかる。

試験場名	品 種 名	倒伏期 (月.日)	枯葉期 (月.日)	10 a 当 り			平 均 1 球 重 (g)	球 形 指 数	貯 蔵 中		試験年次
				全収量 (t)	規格内収 (t)	左 比 (%)			発 根 (%)	腐敗 (%)	
北 見 農 試	せきほく	8.18	9.12	6.60	6.11	135	225	0.91	14.1	5.6	1981～ 1985
	北 見 黄	8.13	9. 6	5.51	4.53	100	206	0.95	52.6	4.1	
中 央 農 試	せきほく	8.12	9. 9	4.89	4.43	115	158	1.01	4.6	0.5	1983～ 1985
	フラヌイ	8.11	9.11	4.52	3.84	100	145	0.99	8.5	2.5	

注) 北見農試における貯蔵中の発根、萌芽、腐敗は1981～1984年の4カ年平均。
中央農試における貯蔵中の発根、萌芽、腐敗は1983、1984年の2カ年平均。

- 参照 1) 北海道農務部編、昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項、24—26 (1984)。
2) 宮浦邦晃、等、北海道立農試集報、53、115—125 (1985)。
3) 北海道農務部編、昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項、20—22 (1986)。

(6) 北もみじ

登録番号：(北海道) たまねぎ準移交第8号

来歴 本品種は、株式会社七宝が作出した細胞質雄性不稔利用による一代雑種である。1979年(昭54)より北見地方で試作検定し優秀と認めて「オホーツク3号」の系統名を付し、さら

に1983年(昭58)に「北もみじ」に改名された。道内の試験機関では1981年以降各種の試験を行い、1984年(昭59)に優良(準奨励)品種に決定した。なお構成系統の育成経過は次のとおりである。

母系統(種子親):「札幌黄」×「Early yellow globe」の後代から貯蔵性の高い系統を選抜し、それを雄性不稔維持系統として、雄性不稔個体に戻し交雑して母系統を選抜育成した。

父系統(花粉親):「札幌黄」を自殖し、乾腐病に強く肥大性のすぐれた系統を選抜育成した。

特性概要 1. 種子の千粒重は5g前後で大粒種であり苗の生育は旺盛である。

2. 草姿はやや立性、葉色はやや濃緑で草勢は「フラヌイ」よりまさる。

3. 鱗茎は「フラヌイ」より大きく、形は地球型で「フラヌイ」よりやや甲高である。球のしまりは「フラヌイ」なみで硬く、外皮の色は黄銅色であるが若干赤味を帯びる。

4. 倒伏期は「フラヌイ」よりやや遅いが、枯葉期は「フラヌイ」より若干早い。

5. 乾腐病に対する抵抗性は「フラヌイ」なみに強い。

6. 平均一球重が「フラヌイ」より重く、規格内球数率が「フラヌイ」なみに高いので、規格内収量は「フラヌイ」より多収である。

7. 貯蔵中の萌芽、発根、腐敗等は少なく、貯蔵性は「フラヌイ」なみに高い。

栽培適地と奨励態度 全道のたまねぎ栽培地帯に適する。また栽培上の注意は従来の品種に準ずる。

試験場名	品種名	倒伏期 (月.日)	枯葉期 (月.日)	10 a 当り			平均 1球重 (g)	球形 指数	貯蔵前(%)		貯蔵中		試験年次
				全収量 (t)	規格内 収量 (t)	左比 (%)			乾腐病	その他 腐敗	発根 萌芽 (%)	腐敗 (%)	
北海道農試	北もみじ	8.16	9.5	5.05	4.64	118	151	0.98	0	5.9	5.9	1.8	1981～ 1983
	フラヌイ	8.17	9.6	4.26	3.93	100	127	1.03	0	2.7	8.1	1.1	
中央農試	北もみじ	8.12	9.9	5.43	4.63	119	177	1.03	0.9	3.0	13.5	1.5	1981～ 1983
	フラヌイ	8.11	9.10	4.47	3.88	100	153	1.03	1.7	2.4	16.5	1.5	
北見農試	北もみじ	7.29	9.16	6.61	5.87	112	220	0.98	1.1	0.9	11.5	2.0	1981～ 1983
	フラヌイ	8.2	9.17	5.84	5.22	100	200	0.92	0.8	2.2	14.9	1.4	

注) 貯蔵中の発根、萌芽、腐敗は、1981、1982年の2カ年平均。

参照 1) 北海道農務部編、昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項、29—30 (1984)。

(7) レ オ

登録番号:(北海道)たまねぎ準移交第9号

来歴 本品種は、タキイ種苗株式会社とホクレン農業協同組合連合会が共同で育成したもので、「札幌黄」の晩生系と、「Early Yellow Globe」の耐乾腐病系との交雑によって育成した雄性不稔系統を母、「北見黄」からの選抜系統を父として作出した一代雑種である。1982年(昭57)以降各種の試験を行い、1980年(昭60)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 種子千粒重は「北もみじ」よりやや軽い、幼苗期の生育は「北もみじ」と差がない。

2. 草姿はやや開張型で生育はやや旺盛である。葉色や葉鞘の太さなどは「北もみじ」と差が

ない。

3. 鱗茎は「北もみじ」よりやや大きく、形や外皮色は「北もみじ」とほぼ同じである。
4. 倒伏期は「北もみじ」なみで、枯葉期は「北もみじ」より若干遅い中生種に属する。
5. 乾腐病に対しては「北もみじ」より弱く、その他の病害の被害程度は「北もみじ」と差がない。
6. 一球重は「北もみじ」より大きい収量は同程度である。
7. 球のしまり、硬さ、皮むけ等は「北もみじ」なみに良く、機械収穫に適する。
8. 貯蔵中の萌芽や発根が「北もみじ」より早く、貯蔵性は若干劣る。

栽培適地と奨励態度 全道のたまねぎ栽培地帯を適地とし、栽培上の注意は従来の品種と同様である。

試験場名	品種名	倒伏期 (月・日)	枯葉期 (月・日)	10 a 当り			平均 1球重 (g)	球形 指数	貯蔵前(%)		貯蔵中		試験年次
				全収量 (t)	規格内 収量 (t)	左比 (%)			乾腐病	その他 腐敗	発根 萌芽 (%)	腐敗 (%)	
北海道農試	レ オ	8.13	9. 4	5.33	5.11	107	162	0.93	0.6	2.2	47.3	2.8	1982～ 1984
	北もみじ	8.12	9. 3	4.95	4.78	100	157	0.95	0	1.6	20.5	2.9	
中央農試	レ オ	8. 9	9.10	5.53	4.82	95	195	1.03	5.7	2.3	35.5	2.5	1982～ 1984
	北もみじ	8. 8	9. 9	5.80	5.07	100	182	1.02	1.7	1.6	3.5	3.0	
北見農試	レ オ	8.14	9.12	6.77	5.82	104	238	0.96	5.7	2.7	43.1	12.5	1982～ 1984
	北もみじ	8.15	9. 9	6.32	5.57	100	209	0.98	1.5	1.7	6.0	13.6	

参照 1) 北海道農務部編。昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項。47—48 (1985)。

(8) ツキヒカリ (旧系統名 月交7号)

登録番号：(北海道) たまねぎ北海道交第4号；(農水省) たまねぎ農林交3号

来歴 本品種は、1980年(昭55)に北海道農業試験場において「W202A」を母、「S6010」を父として作出した細胞質雄性不稔利用による一代雑種である。1982年(昭57)に「月交7号」の系統名を付し、以後各種の試験を行い、1986年(昭61)に優良(奨励)品種に決定した。

なお構成系統の来歴は次のとおりである。

W202A：1974年(昭49)にアメリカの Wisconsin 大学から導入した乾腐病抵抗性を有する貯蔵性の高い細胞質雄性不稔系統で、雄性不稔維持系統「W202B」も同時に導入した。本系統は「フラヌイ」の種子親として利用されている。

S6010：1976年(昭51)に「札幌黄・坂野系」から選抜、育成したもので、乾腐病抵抗性を有し、鱗茎の肥大性、表皮特性が優れた系統である。

特性概要 1. 種子は3.7～4.2g/1,000粒で「フラヌイ」なみの小粒。発芽勢や発芽率は「フラヌイ」と差がないが、初期生育は「フラヌイ」より若干劣る。

2. 草姿、葉形、葉色、葉折れ、ブルーム等は「フラヌイ」と差がない。

3. 倒伏期は「フラヌイ」より2日前後遅く、枯葉期は、道央では「フラヌイ」と差がないが、道東では「フラヌイ」より5日前後遅い。総じて本品種の早晩性は、「フラヌイ」を中生とすれば、中生の晩に相当する。

4. 乾腐病に対する抵抗性は、「フラヌイ」なみに強く、軟腐病に対しては「フラヌイ」なみで、「札幌黄」よりやや強い。
5. 鱗茎の肥大性が優れ、平均1球重は「フラヌイ」より約10%重い。そのためL L, L球率が高く、全収量、規格内収量ともに「フラヌイ」より10%程度多い。
6. 鱗茎の形は、「フラヌイ」より甲高の地球型で肩の張りが良好である。表皮の厚さは「フラヌイ」よりやや厚く、裂皮や皮むけがしにくい。表皮の色は濃い黄銅色で、色や光沢は「フラヌイ」よりまさる。
7. 貯蔵中の萌芽、発根、茎盤部突出などは「フラヌイ」と同程度で、通常の貯蔵施設でも4月上旬まで貯蔵が可能である。

栽培適地と奨励態度 栽培適地は全道一円で、主に道央地域において普及する。栽培上の注意は「フラヌイ」に準ずる。なお種子が小さいので、苗床播種に当たっては、密播にならないよう注意する。また採種栽培では、種子親系統の開花が花粉親系統より4～7日遅いため、種子親系統の萌芽を促進する必要がある。

試験場名	品 種 名	倒伏期 (月・日)	枯葉期 (月・日)	10 a 当 り			平 均 1球重 (g)	球 形 指 数	貯 蔵 中		試験年次
				全収量 (t)	規格内 収 量 (t)	左 比 (%)			発 根 芽 (%)	腐敗 (%)	
北海道農試	ツキヒカリ	8.15	9. 1	5.59	5.46	105	174	0.90	19.4	15.3	1983～ 1985
	フラヌイ	8.13	9. 2	5.38	5.18	100	168	0.88	13.7	14.9	
中央農試	ツキヒカリ	8.13	9.11	4.73	4.39	114	147	0.99	4.5	1.5	1983～ 1985
	フラヌイ	8.11	9.11	4.52	3.84	100	145	0.98	8.5	3.0	
北見農試	ツキヒカリ	8.17	9.10	6.05	5.34	105	218	0.94	36.3	14.6	1983～ 1985
	フラヌイ	8.13	9. 5	5.47	5.07	100	196	0.90	38.5	11.9	

参照 1) 北海道農務部編。昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項。16—19 (1986)。

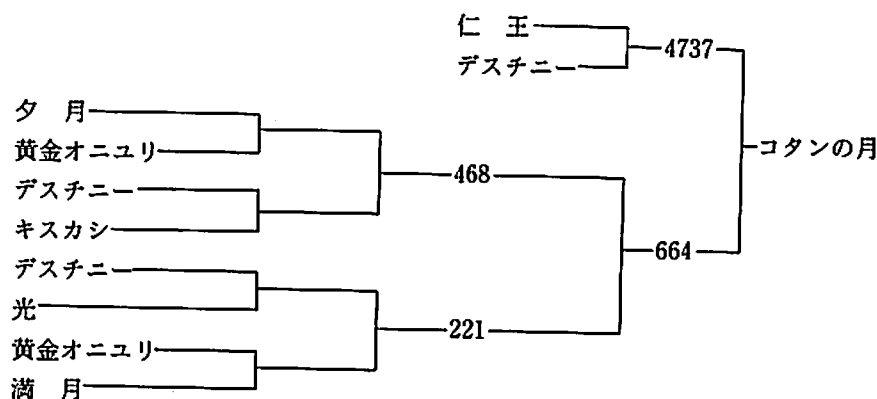
V 花 卉

1. 花ゆり

(1) コタンの月 (旧系統名 5226)

登録番号：(北海道)花ゆり北海道第6号

来歴 本品種は、1973年(昭48)に北海道立中央農業試験場において「4737」(仁王×デスチニー)を母、「664」(栗山町藤島氏育成系統)を父として人工交配を行い育成したもので、1977年(昭52)以降「5226」の系統名で各種の試験を行い、1986年(昭61)に優良(奨励)品種に決定した。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 萌芽期は「岩内黄金」、「金扇」と同じで、その後の生育は旺盛である。出蕾期は「金扇」より5日程度遅く、蕾着色期や開花期は「金扇」より12～13日遅く、極晩生種に属する。

2. 開花の向きは上方からやや斜上方(受咲き)である。花弁は「金扇」に似た鮮明な黄色で、外花被がやや反転する。花径は「金扇」よりやや小さいが、1花茎あたりの花蕾数は「岩内黄金」より明らかに多く、「金扇」に比べてやや多い。

3. 草丈は「金扇」より高く、葉数も多い。葉巾、葉長は「金扇」より大きく、ややテリ葉である。また止め葉下節間長が「金扇」より短く、草姿のバランスが良い。

4. 一般栽培で葉枯れ症状は「岩内黄金」より明らかに少なく、「金扇」と同程度である。

5. 木子の着生数は「岩内黄金」や「金扇」より多く、大きさも「金扇」よりは明らかに大きく、「岩内黄金」なみである。従って増殖率はこれらの品種より高いと考えられる。

栽培適地と奨励態度 栽培適地は全道一円で、露地栽培の切花用として奨励する。栽培に当たっては、暑い時期の開花となるので、浅植えとならないよう注意するほか、敷わらなどを行い土壌水分の保持につとめる。

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月.日)	出蕾期 (月.日)	開花期 (月.日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	花蕾数 (個/株)	花 径 (cm)	木子数 (個/株)	試験年次
中央農試	コタンの月	4.26	6.17	7.24	87	98	5.9	15.9	5.5	1979～ 1985
	金 扇	4.25	6.11	7.14	68	77	4.6	16.6	1.8	

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月.日)	出蕾期 (月.日)	開花期 (月.日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	花蕾数 (個/株)	花 径 (cm)	木子数 (個/株)	試験年次
道南農試	コタンの月	5.10		7.26	62		4.2	16.2		1984～
	金 扇	5.13		7.12	58		4.6	16.9		1985

参照 1) 北海道農務部編。昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項。23 (1986)。